

令和元年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「税金の使い道」

大淀町立大淀中学校 一年 矢野 楓果

私は、前から税金を納めなければいけないのは知っていたけど、何のために税金を納めるのか、何に使うのかを知りませんでした。なので、税の使い道について調べてみました。

税金は、公園や公民館など、公共施設を造るために集めています。もちろん学校も公共施設なので、学校にも税金が使われています。例えば、黒板や、机、いすや校庭にある遊具、校舎全体などが税金で造られています。特に私が気になったことが二つあります。一つめは、集められた税金は日本でしか使われていないのか、ということです。実は、世界にも日本の税金が使われているのです。日本の税金で海外に病院を造ったり、ダム、道路なども造られています。さらに、病院で使われる薬や、注射器を送ったりしています。このような活動を政府開発援助・ODA といい、日本やアメリカのような先進国が、アフリカなどの発展途上国に開発や、福祉のために資金を援助したりする活動を行っています。他にも産業や教育などの技術を教えたりしています。日本は海外にも税金を送って、援助していて、とても素晴らしいなと思いました。二つめは、税金がなかったらどうなるのかです。税金がなくなれば、もし家に怪しい人が入って、大事なものがぬすまれていた。ということが起きて、警察を出動させるのにもお金がかかるので、そんな事件にも対応できなくなります。警察だけでなく、学校や病院なども被害が出てきます。病院では、治りようを受けられない子供などが増えて、大変なことになります。犯罪を犯した犯人も警察が出動しないので、捕まらず、次々と犯罪が起こります。そして、大きな地震など、大災害が起きて、税金がないので、復興への道にも進めません。地震国とも言われている日本に、税金がなかったら、日本中は建物もほぼ建っていないし、水道の水も飲めないし、けがをしても、救急車を呼ぶのにもお金があるので呼びづらいといういろいろ不便になるので、日本中にも、世界中にもメリットがないのです。

このように、税金は海外にも、日本にも必要とされているのです。令和元年十月から、消費税が10%になりますが、日本のためにも、海外のためにも、きちんと税を納めて、みんな豊かなくらしができるような世界になっていけたらいいなと思います。